				年　月　日
家庭（養育者・家族）				
【長期目標】・施設と母との信頼関係を築きながら、家族関係の修復を目指していく。				
	支援上の課題	支援目標	支援内容・方法	評価（内容・期日）
【短期目標】（優先的）	母子間の距離は宿まっているが、物（小遣い、食べ物）を介在とした母子関係も見られる。また兄が本児の世話をすることも多い。	祖父の支援を得た中で、母が本児と情緒的な交流を図ったり、子育て（生活支援）ができるよう、相談センター通じて支援する。	・帰省時の状況把握を通して、相談センターと修正内容をすり合わせ、再評価を行う。 ・ことりさわ学園担当者との定期的な情報交換	兄を除いた母子間の交流に重ねてきたことで、母子間のつながりは強くなってきている。生活支援の課題も浮き彫りとなってきているのしかし体調管理が完ぺきでないと、分離されて帰省 22年 3月3/日
				年　月　日
				年　月　日
地域（保育所・学校等）				
【長期目標】・幼稚園生活を通して、体験を拡げながら自己肯定感を育てていく。				
	支援上の課題	支援目標	支援内容・方法	評価（内容・期日）
【短期目標】	集団活動が苦手であり、幼稚園通園に対して受身の姿勢であるため、忘れ物が多い。	得意とするものを認めながら、集団活動で充足感を得られるような支援を担任と共有する。	・送迎時に担任と情報交換をし、定期的な面談も実施する。 ・連絡事項を自身のこととして受け止め、伝えてくるよう議付けをする	学期は終了すべに向けた取り組みやすいであったが、前見、発作により、休みがち。心因的なものであり、達成できなかった。 22年 3月3/日
	将来的な家族再統合に向けた支援体制の確認が必要。	相談センター通じて地域ネットワークの整備を進める。	・母の主治医と連携しながら、兄の学校、市の福祉などと共通理解を持てるような組み立てを行う。	十分ではないため、継続継続必要。 22年 3月3/日
【長期目標】・本児と母の精神的安定及び家族間の交流を図りながら、家族再統合の在り方や時期を探っていく。				
	支援上の課題	支援目標	支援内容・方法	評価（内容・期日）
【短期目標】	家族再統合について。	相談センター通じて家族再統合の方向性を母と共有し、次年度の支援を明確にしながら、就学の準備を進める。	・チェックリストに基づいたアセスメントを実施する。 ・FSW と共に支援会議に出席し、情報交換する ・就学時説明会に母と出席し、必要な準備をする	次年度は学園から東小へ通学することにし、就学の準備も終えている。 22年 3月3/日
	本児の現状理解に努める必要がある。（減少しているものの夜間時に身体症状を訴えて泣くことが見られる。どもり）	本児の心的な状態についての変化を把握し、支援の見直しを図る（情緒の成長、母への思い）	・心理担当による心理面談、発達検査の実施。また個別対応も実施する。	夜間時に身体症状訴えることは減ったものの、対人関係に緊張が残り、また甘えが強いため、継続必要。 22年 3月3/日
【特記事項】 ・段階を踏んで、現在は兄を含めた帰省を月に１～２回、本児のみの帰省を月に１～２回実施している。				

□□□